



オフィスアプローズ 歌劇《夕鶴》

丁寧な演唱で観客を惹きつけた一夜。今回の《夕鶴》は墨田区拠点のオフィスアプローズの主催公演だが、この日はつうの名アリアから男声三重唱辺りの完成度がことに高くて客席も静まり返るほど。まずは歌い手の好調な喉に拍手を。稲見里恵（つう）は柔和な中低音域と鮮烈な最高音でフレージングに説得力をもたらすし、所作にも哀感を厚く滲ませた。次いで青柳素晴（与ひよ）もスピント寄りの滑らかな響きで熱演し、童心が覗く表情付けも秀逸。内面の動きに細やかに映し出し、歌声も盤石な清水良一（運ず）と、強情さを通りの良い声音で表現した佐藤泰弘（惣ど）も好演した。汐澤安彦の指揮も管弦楽と歌声のバランスを見極めて好調。すみだ室内オーケストラも全力投球で表情豊か。杉理一の演出は役柄の性格付けを緻密に表現し、与ひよが頑なになる幕切れなど印象に強い。グルッポピッコリーニすみだ（児童合唱）も元氣一杯。（6月17日・曳舟文化センターホール）

〈岸純信〉

音楽の友

2017.8.